

2 0 0 2

# 授業概要

【シラバス】

## 専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAKAWA GAKUEN COLLEGE



## 目次 (専攻科)

<b>保育専攻1年</b>	1
教育原論	3
幼児教育特論	4
教育課程論	5
保育原論	6
保育内容研究Ⅰ	7
保育内容研究Ⅱ	8
保育内容研究Ⅳ	9
音楽研究	10
図画工作研究	11
現代保育特論Ⅰ	12
保育健康学特論	13
乳児保育特論	14
障害児保育特論	15
児童福祉特論	16
保育問題研究Ⅰ	17
保育問題研究Ⅲ	18
専攻科実習特演Ⅰ	19
専攻科実習Ⅰ	20
総合演習研究Ⅰ	21
終了研究演習	22
<b>保育専攻2年</b>	23
保育内容研究Ⅲ	25
現代保育特論Ⅱ	26
保育・教育相談研究	27
家族福祉特論	28
専攻科実習特演Ⅱ	29
専攻科実習Ⅱ	30
総合演習研究Ⅱ	31
終了研究演習	32
<b>福祉専攻</b>	33
老人福祉論	35
リハビリテーション論	36
老人・障害者の心理	37・38
家政学概論、実習	39~41
介護概論	42
介護技術	43
形態別介護技術	44~48
医学一般	49
レクリエーション活動援助法	50
実習指導	51
介護実習	52
修了研究演習	53
社会福祉制度政策論	54
障害福祉論	55
社会福祉援助方法論	56



保育専攻（1年）



<b>【授業科目】</b> 教育原論	担当者 岡本富郎
<b>【開講時期】</b> 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 1. 保育の在り方を哲学的に探求する。2. 保育の構造を知る。 3. 討論を通じて、考える力、討論をする力を養う。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 『FOR THE CHILD－保育者養成を考える』（蒼丘書林の岡本論文）「保育研究」（岡本論文「保育の構造」「戦後の保育内容」等）	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの現状、保育の現状。</li> <li>2. 保育の内容（何を育てたいか）</li> <li>3. 子ども像の在り方。どう描くのか。何故この子ども像なのか。</li> <li>4. 保育と子ども期との関係（子ども期とはどういう時期なのか）</li> <li>5. 子どもが生きるとはどういうことなのか。－生と死との関係－</li> <li>6. 子どもの幸せとは一体何なのか。</li> <li>7. 戦後の保育内容について。</li> <li>8. 保育構造について。</li> <li>9. 保育構造は必要か。</li> </ol>	
<b>【授業評価】</b> 数回のレポートと発表、期末のレポート	

【授業科目】 幼児教育特論	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>わが国幼児教育の今日の課題を明らかにし、保育の歴史と多様な保育理論に学び、これからの保育のあり方を考えることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業の中で指定する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園教育要領および保育所保育指針が改正され、2000年4月から幼稚園と保育所で新しい基準による保育が始められた。</p> <p>授業では保育の歴史をたどり、今日の子どもがおかれた状況と幼児教育の課題を明らかにする。</p> <p>この課題と取り組むこれからの保育を考えるため、近代における子どもの発見と生活教育・保育の思想の流れをルソー、ペスタロッチ、フレーベルに学び、19世紀の末から20世紀における子ども中心の教育思想と実践をデューイ、モンテッソーリなどに見る。</p> <p>わが国では倉橋惣三の誘導保育論をとり上げる。</p> <p>全体を通じて保育における「子ども中心」の思想を子ども観および遊び、仕事、経験そして環境および保育者の役割などの等の観点から学び、理解を深めることにしたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび授業への出席と参加</p>	



【授業科目】 教育課程論	【担当者】 小川 博久
【開講期】 1年 後期 (集中)	
<p>【授業目標】</p> <p>専攻科の学生に保育という営みを理論的かつ実践的に理解させたい</p>	
<p>【テキスト】 「保育援助論」 生活ジャーナル 2000年</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>保育援助論を読み、レポートを作成させ  その中で問題点としてあげられたことに対し、  解答したり、discussionしたりすることで  章立に沿って保育の理論と実践を学ばせていく</p>	
<p>【評価方法】 レポート評価</p>	

【授業科目】 保 育 原 論	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 1 年 前 期	
<b>【授業目標】</b> 保育の基本及び原理について、保育現場の実際を踏まえて理解する。	
<b>【テキスト】</b> 無藤 隆編『幼児の心理と保育』ミネルヴァ書房	
<b>【参考書】</b> 授業時に適宜、紹介する。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>※テキストを順次読み進める中で、理解を深める。その際、各章毎にレポーターを決め、そのレポートをもとに討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの生活・遊び・学び</li> <li>2. 保育者の援助</li> <li>3. 園環境と保育</li> <li>4. 保育の評価とカリキュラム</li> <li>5. 保育におけるカウンセリング</li> <li>6. 知的発達と保育</li> <li>7. 文字の獲得・数量理解と援助</li> <li>8. 表現の保育</li> <li>9. 保育者としての成長</li> <li>10. 保育実践の特質</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 出席状況とレポート	

【授業科目】 保育内容研究Ⅰ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達及び幼児の身体表現力の発達をふまえ、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その援助・指導方法について学ぶ。特に言葉がけについては演習形式で実践的に学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(1) 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①幼児教育における身体表現やリズムカルな身体活動の現状と問題点</li> <li>②保育現場で見られる身体表現</li> <li>③身体表現の教育的意義</li> <li>④指導の実践例</li> </ul> <p>(2) 身体表現力の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①保育園の3歳未満児クラスに見られる身体表現とその変化</li> <li>②身体表現活動に見られる身体表現力の発達（3歳児、4歳児、5歳児）</li> </ul> <p>(3) 身体表現の指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ねらい</li> <li>②援助の基本的姿勢</li> <li>③援助の方法（3歳未満児、3、4、5歳児）</li> </ul> <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①指導実践例における言葉がけの分析</li> <li>②言葉がけのあり方</li> <li>③身体表現の発達段階にあった言葉がけの実践的研究</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の一部、対話形式や演習形式をとるので積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目】 保育内容研究Ⅱ(認識)	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児教育法の各論“認識教育法”に重点をあてて、哲学、生理学、心理学、教育学におよぶ学際教科“認識”学をねらっている。私流に言えば input教育法の概論という内容になる。自然事象の認識を例示することが多いが、社会事象、文化事象の認識にも通用する認識原理と考えてもよい。また、認知科学とコンピューター・モデルにも言及する。研究法の一助にもなるよう配慮して編成してある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>時実利彦著「目で見る脳」 水野寿彦緒「幼児の生活と自然」教学研究社</p>	
授 業 計 画	
<p>幼児教育法各論をどう考えるか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.正しい認識を豊かに身につける教育法 (inputの教育について)</li> <li>2.自分自身の知的財産を豊かに、効果的に表現できるようにする教育法 (outputの教育について)</li> <li>3.望ましい生活習慣を身につけ、大人の社会に適応させる教育法 (adaptationの教育について)</li> <li>4.自然認識・社会認識・文化認識というサブ・ジャンルの特質</li> </ol> <p>“認識”とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育学における terminology (専門用語と生活用語)</li> <li>2.用語の正しい理解のしかた</li> </ol> <p>“認識”を理解するための生理学①受容器と神経細胞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.環境のリセプター (全体区のリセプターと局所のリセプター)</li> <li>2.リセプター (受容器)の構造と機能</li> <li>3.神経細胞の構造と機能</li> </ol> <p>“認識”を理解するための生理学②神経系と脳</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4.神経系と神経節・脳の関係</li> <li>5.脳の構造と機能の分化</li> <li>6.生理学的原因による認識不全の現象</li> </ol> <p>“認識”を理解するための心理学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.レンズ眼による例像を正位像と見なす適応</li> <li>2.残像と編集</li> <li>3.錯覚と先入観</li> <li>4.イメージと記憶のファイリング</li> <li>5.夢とファイルと発想</li> <li>6.“認識”のモデルとコンピューター</li> </ol> <p>“思考”を考えるモデル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.中沢和子著「新版幼児の科学教育」の分析</li> <li>2.中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル</li> <li>3.“思考”モデルとコンピューターのアナロジー</li> <li>4.コンピューター理論の現状と未来</li> <li>5.“認識”と“思考”の教育学的総括</li> <li>6.“智・情・意”の認識学的説明</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>時間中に提出するレポートと期末試験による</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 保育所保育指針や幼稚園教育要領では「環境を通して行う保育」が特筆されており、そのなかで環境としての人間関係は重要な位置を占める。また、保育指針や教育要領では領域として「人間関係」がとりあげられている。本講では、子どもが育つ環境としての「人間関係」と、育ちのねらいの内容としての「人間関係」の二つを一つのものとして捉え、とくに集団生活に注目しながら考えていく。社会的存在としての人間・子どもの生活拠点としての人間関係のあり様を検討する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの育ちにとって必要な「人間関係」とは何か</li> <li>2. 人と人との関わりをもつ意味</li> <li>3. 集団生活のなかでの子どもの生活</li> <li>4. 集団生活の展開過程</li> <li>5. 集団生活を支える社会規範</li> <li>6. 集団生活を支える文化</li> <li>7. 子どもの集団生活と保育者の役割</li> <li>8. 人間関係の発展と保育カリキュラム</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

<p>[授業科目] 音楽研究</p>	<p>[担当者] 秋山治子</p>
<p>[開講期] 専攻科 1年 前期</p>	
<p>[授業目標]</p> <p>これまでに培ってきた音楽の基礎知識、基礎能力を更に高めて、幼児の年齢発達を踏まえながら、保育者の人的環境のあり方や指導法等について主に、'実技・実践論を通じて学んでいく。授業の柱は以下に挙げる4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児期の音楽について、実践的な指導法や発達を踏まえた援助・指導の仕方を学び、更に探求する。</li> <li>② 伴奏法の習得</li> <li>③ 幼児の楽器や様々な音に対する興味・関心を無理のない方法で育てるにはどうしたらいいか、について考え、学ぶ。</li> <li>④ 幼児の歌曲のレパートリーを広げる。</li> </ol>	
<p>[テキスト]</p> <p>「子どもの歌」秋山治子著 共同音楽出版社  「コードネーム・和声・伴奏付け」秋山治子監修 共同音楽出版社</p> <p>[参考書]</p> <p>「子どものうたアンサンブル」秋山治子著 小学館</p>	
<p>[授業内容]</p> <p>授業は次の3つの学習ポイントに沿って進めていく。(幼児の音楽発達と興味を無理なく上手にリードしてゆくにはどうしたらよいか、ということのを常に念頭におく)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 幼児曲を数多く歌い、曲についての時代背景等について、話し合いながら進めていく。</li> <li>② 歌と楽器に関する幼児の音楽能力について理解を深め、実践を通して進めていく。</li> <li>③ 伴奏法の基礎と応用を演習を通して学んでいく。</li> </ol>	
<p>[評価方法]</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目名】 図画工作研究	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助について、具体的な実践事例をもとにして学びます。</p> <p>特に、豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助のあり方について考察します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆以下のテーマについて、授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて。</li> <li>2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について。</li> <li>3. 以上の2つのテーマについて、実際の保育現場での実践事例を検討材料にして、援助指導のあり方について分析考察をしていきます。</li> </ol> <p>(実際に保育現場へ行ったり、保育現場からのVTRや作品などの具体的な実践資料を活用していきます)</p> <p>*各授業の中で、レポート報告や話し合いなどの実践検討を行なっていきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業で学んだ内容を一冊のノート (orファイル) にまとめて提出</p>	

【授業科目名】 現代保育特論 I	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 都市化、核家族化・少子化、女性（とくに母親）の社会進出の増大          価値観の多様化など社会のはげしい動きのなかで保育ニーズは多様化          し、さまざまな保育のあり方が求められている。さらに、児童福祉法          の改正をもととする制度変革期にあつて、保育行政からの課題も少な          くない。家族や地域社会の保育ニーズにどう応えるか、そのための専          門性をいかに習得していくか、主として保育園に例をとりつつも幼稚          園にも共通のテーマとして捉えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもをとりまく社会の動き</li> <li>2. 保育をとりまく社会の動き (1)都市化</li> <li>3. 保育をとりまく社会の動き (2)核家族化</li> <li>4. 保育をとりまく社会の動き (3)少子化</li> <li>5. 保育をとりまく社会の動き (4)女性の社会進出の増大</li> <li>6. 保育をとりまく社会の動き (5)価値観の多様化</li> <li>7. 保育制度の改変と保育園 (1)保育行政の変化</li> <li>8. 保育制度の改変と保育園 (2)保育園機能の変化</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	



【授業科目】 保育健康学特論	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日常の保育活動の中で遭遇するさまざまな子どもの健康問題や健康保育の実践について、具体的に理解する。</li> <li>2 子どもの健康問題や保健活動に対する見方や考え方について理解を深める。</li> </ol>	
【テキスト】	
<p>【参考書】</p> <p>毛利子来・山田真編集代表：ちいさい・おおきい・よわい・つよい、ジャパンマシニスト社</p>	
授 業 計 画	
<p>保育健康学特講は、保育実践における諸問題を健康学（健康の維持増進と疾病予防の学問）的に検討し理解することを目的とする。その授業内容は、大きく分けて、子どもの保健管理（主体管理、環境管理、生活行動管理）、保健教育、保育者の健康管理の3領域からなる。</p> <p>今日、健康対策において「ヘルス・プロモーション」という概念が強調され、周囲の仲間とともに自らのからだや健康をまもり育てることのできる人間、そして、健康的な環境と状況を創りだしていける人間が求められている。</p> <p>そこで、保育実践に関わる健康問題を検討するためのアプローチと視点は、教育学的、及び行動科学的な手法を重視する。毎回の授業は、学生からのレポート報告とその検討を通して行う。</p> <p>主なレポートテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予防接種はどれを、どう受けますか</li> <li>健康診断で何が分かるの</li> <li>おやつ、お菓子はむずかしい</li> <li>肥満は病気のもと？</li> <li>子どもたちに何を食べさせたらいい？</li> <li>けが、誤飲、転落</li> <li>育児に除菌は必要ないの</li> <li>知りたい食中毒と伝染病</li> <li>知りたいインフルエンザ</li> <li>注意欠陥多動性障害（ADHD）</li> <li>乳幼児突然死症候群（SIDS）</li> <li>アレルギー増加が心配です</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、ペーパーテスト、学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目】 乳児保育特論	【担当者】 清水 玲子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>今日の乳児保育における理論的、実践的問題を取り上げ、乳児保育の今日的課題を把握し、考察を深めることを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】 授業時に指示する</p>	
<p>【参考書】 授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>上記の目的のために、以下の内容で授業を行うよけいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳児保育の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の歩み</li> <li>・乳児保育の現状を知る</li> </ul> </li> <li>2) 乳児保育実践の検討</li> <li>3) 乳児保育の方法に関する理論的検討</li> <li>4) 今日の子育てと乳児保育</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・レポート</p>	

【授業科目】 障害児保育特論	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害のある子どもの保育を取り巻く現状について理解を深め、障害児保育（統合保育）の理論と実践の現在の到達点を探る。</p> <p>特に、保育実践および教育実践における実践的テーマを設定検討や議論を深めるとともに、子どもに関わりながら調査や記録をとりグループワーク形式で検討・研究をすすめる</p>	
【テキスト】 授業の中で提示する	
<p>-----</p> <p>【参考書】「いまどきしょうがい児の母親物語」ほれほれくらぶ（ぶどう社）</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 障害児保育を取り巻く現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料・手記を読み合わせしながら課題を探る</li> </ul> <p>2. 保育実践における実践的テーマの設定と子どもとのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料・手記を読み合わせしながら課題を探る</li> <li>・ 特に保育実践で気になる子（ADHD児など）の特徴の理解を中心に</li> <li>・ 親の心理とその援助ー「障害」の受容とその援助</li> </ul> <p>3. 障害児教育における実践的テーマの設定と子どもとのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学と選択；養護学校ー障害児学級 小学校（部）ー中学校（部）ー高等部における課題</li> <li>・ 教育の中でめざすものー特に、卒後の地域生活を念頭におきながら</li> </ul> <p>4. 実際に障害のある子どもと関わりながら、テーマ課題について検討しグループワークをすすめていく</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験・平常点</p>	

【授業科目】 児童福祉特論	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】          これまでの児童福祉の学習を基礎にしつつ、家族状況の多様化及び少子社会における子どもの問題に重点をおいて、その背景を地域・社会のあり方、児童福祉施策との関連で深め、地域の子育て支援と児童の健全育成のために果たすべき保育士の役割を具体的に検討する。児童福祉施策の現状を論じた後に、子ども虐待、いじめ、少年犯罪を題材に子ども達のおかれている現状と、子どもの権利の具体的な実現についての専門職としての役割、地域社会における保育士の役割の重要性を明らかにし、児童福祉の担い手としての観点を養う。</p>	
【テキスト】 使用しない	
【参考書】 授業の中で紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と子どもの置かれた現状              少子社会における子どもの現状を、いじめ、不登校などの問題を通して考える。</li> <li>2. 地域の子育て支援と児童福祉施設の役割              家庭の子育て力が低下している中、子育ての社会化への歩みが求められている。児童福祉施設が行っている子育て広場、ショウトステイ、トワイライトステイ、等を概説し施設の役割を考える。</li> <li>3. 子どもの虐待問題と子育て              子どもの虐待が増加している。虐待のメカニズムと虐待の無い子育てへの支援を考える。また、子ども虐待防止法の活用と今後の整備について考える。</li> <li>4. 子どもの犯罪その理解と対応              少年犯罪の現状を概説し、子どもの犯罪の背景と援助について考える。</li> <li>5. 虐待を受けた子どもの理解とケア              虐待を受けた子どもの様々な行動上の問題について事例を基に検証し、子どもの理解と援助の方法について考える。</li> <li>6. 子どもの権利条約の実現とわたしたちの役割              子どもにとって様々な問題が多い社会状況であるが、子どもの権利条約を実現するために必要なことを検討し、児童福祉の将来とその課題を探る。</li> </ol>	
<p>【評価方法】          授業の出席と積極的な討議への参加及びレポート</p>	

【授業科目】 保育問題研究Ⅰ	【担当者】 加藤 理
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもという存在への問い直しが、われわれに課せられた緊急の課題となっている。そこで、子どもを取り巻く文化を概観しつつ、&lt;子どもに関わる文化&gt;&lt;子どもが関わる文化&gt;を視点に、&lt;子ども&gt;の再検証を行なうことを本講義の第一のねらいにする。子どもの育ちの具体例を取り上げつつ考察を加えることで、子どもの育ちそのものへの検証と同時に、子どもの育ちに文化はどのように関わっているのか考察していく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>浅岡靖央・加藤理編著『子どもの育ちと文化』相川書房</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① &lt;子どもに関わる文化&gt;の歴史的概観</li> <li>② &lt;子どもが関わる文化&gt;の歴史的概観</li> <li>③ 現代の&lt;子どもに関わる文化&gt;&lt;子どもが関わる文化&gt;の分析…その1</li> <li>④ 現代の&lt;子どもに関わる文化&gt;&lt;子どもが関わる文化&gt;の分析…その2</li> <li>⑤ 子どもの育ちとエデュケーション</li> <li>⑥ 子どもの育ちとプロテクション</li> <li>⑦ 子どもの育ちとアニマシオン</li> <li>⑧ 子どもの育ちと自然環境</li> <li>⑨ 子どもの育ちと社会環境</li> <li>⑩ 子どもの育ちと&lt;子どもに関わる文化&gt;</li> <li>⑪ 子どもの育ちと&lt;子どもが関わる文化&gt;</li> <li>⑫ &lt;子どもに関わる文化&gt;と&lt;子どもが関わる文化&gt;の循環</li> <li>⑬ &lt;子どもに関わる文化&gt;と大人と子どもの関係性</li> <li>⑭ &lt;子どもが関わる文化&gt;を視点として見た「子ども性」</li> <li>⑮ 子どもと文化</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中のミニレポート</p>	

[授業科目名]	保育問題研究Ⅲ	[担当者] 八木 紘一郎
[開講期]	後 期	
[授業目標]	<p>激しく進化し続けるメディア環境、デジタル化が、子どもの発想や思考の仕方、コミュニケーションの仕方、対人関係のとり方、感性や表現、遊びなど、子どもと生活文化にどのような影響を及ぼしているのかを捉え、これからのIT時代の子どもの文化、保育文化をどのように創造していくかを探る。</p>	
[テキスト・参考書]	<p>「ニューメディア時代の子どもたち」子安増生、山田富美雄編・有斐閣  「マルチメディア時代の子どもたち」八木紘一郎共著・産調出版</p>	
<b>授 業 計 画</b>		
<p>子どもたちは、多様に激変しつつあるメディア環境の影響を受けて、メディア迷子になる危険にさらされているが、幼児期からの多彩な遊びや表現活動やコミュニケーション活動におけるマルチメディア活用体験を積み重ねて、創造的で豊かなメディア活用力の基本を身に付けるようになる。これからの保育士は、そのために幼児期に必要な多彩なメディアを目的に合わせて柔軟に活用する援助方法を身につけなければならない。この講座では、その基本的な知識と具体的な方法技術を実践的に学ぶ。</p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) メディア環境の急激な進化と普及を概観し、それらが私たち自身や子どもたちにどのような影響をもたらしているのか、五感や思考や身体への影響、人間関係や社会性への影響、表現と感性へのプラスマイナスの影響などについて明らかにして検討する。</li> <li>2) それらの影響に対処に必要な対策と具体的な実践方法についてどのような実践があるのか、それらの課題について、および、保育文化のなかで必要な実践方法を考える。</li> <li>3) マルチメディアの活用の仕方、スキルやメディアリテラシーをどう捉えていくのかなどを検討する。身近なメディア活用方法について検討する。</li> <li>4) 本来、子どものメディア環境の活用力について、。現状と課題情報化時代。情報刺激。多様なメディア環境に生きる人間、特に、子どもたちへの影響について、そのプラスマイナス、保育のなかで育成しなければならないスキル。リテラシー。既存文化のメディア、新しいデジタルメディアの影響を受けている子どもたちのために、家庭ではどうあったらいいのか、保育文化として何を強化しなければならないのかを実践的に考え、具体的な対策を考察する。</li> </ol>		
[評価方法]	平常点	

【授業科目】 専攻科実習特演 I	【担当者】 師岡章
【開講期】 1 年 後 期	
<b>【授業目標】</b> ① 専攻科実習の意義と内容を知る。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 毎週、実習内容について分析し、学び合う。 ④ 実習終了後、全体の分析とまとめをする。	
【テキスト】	
<b>【参考書】</b> 授業時に適宜、紹介する。	
<b>授 業 計 画</b>	
① 専攻科実習の意義と内容について話す。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 具体的な観察の方法について学び合う。(1) ④ 同上 (2)  (以上が実習前の内容。以下は、実習中と終了後の内容。)  ⑤ 毎週、実習内容についての分析、討論。(計9週) ⑥ 実習終了後、全体で実習内容の分析とまとめをする。 ⑦ 実習記録の小冊子を作成する。	
<b>【評価方法】</b> 平常点とレポート	

【授業科目】 専攻科実習 I	【担当者】 師岡章
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>「専攻科実習特演 I」で学んだ実習内容を基にして実習に取り組む。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>① 質の高い保育者をめざして、総合的な実践能力を高めるために、多様な視点を持って観察し、体験をする。</p> <p>② 実習テーマをもとに、研究的な視点に立ち、実践を考察する。</p> <p>③ より実技的に高度な実践能力を身につけるための体験をする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、実習記録、反省会などを総合して評価</p>	



【授業科目】 総合演習研究 I	【担当者】 近藤正樹・民秋 言
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>近頃の社会的問題として児童虐待とか“いじめ”とか不登校とか気がかりな話題が増えてきた。これらは子ども間ばかりではなく、おとな間やおとなと子どもの関係、すなわちヒトとヒトとの関係が歪んでいること、不自然になってきたことと指摘されている。</p> <p>本講では、社会学的、自然科学的な考察のしかたを提示しながら、“集団の理解”という副題のもとに演習と講義を展開する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>各項目ごとに、その都度紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>— 集団の理解 —</p> <p>集団の哲学的理解              集団とは何か  個体と集団  超個体的個体  個体群              ヒトの集団（社会）の特性  個人と法人 }   （月……民秋、水……近藤）</p> <p>集団の生物学的（行動学的）理解（水……近藤）              集団行動の比較と集団の進化              集団構成の秩序              集団にみられる性（性質・傾向）と制（形質・システム）</p> <p>集団の社会学的理解（月……民秋）              家族と友人とその他の人びと              集団の機能              集団を保つための規範              役割構造と権威の構造</p> <p>集団の教育効果（月……民秋）</p> <p>集団特性の抽象的把握（水……近藤）              集団理解上の技術  分布の様式と密度              集団特性の検証  特性値の統計操作</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>宿題の発表状況と期末試験による</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。</li> <li>2. テーマによって、担当教員を決定する</li> <li>3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。</li> <li>4. 修了研究論文をまとめ、提出する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

保育専攻（2年）



【授業科目】 保育内容研究Ⅲ	【担当者】 佐々加代子
----------------	-------------

【開講期】 2年 前期
-------------

<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児（障害児を含む）の言語の生活化の質にねらいをおく保育の追及をする。話しことば、書きことばの発達過程、思考活動や発想・想像・創造活動までを見通した内容の検討をする。</p>
---

<p>【テキスト】 佐々加代子コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房</p>
---

<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>
----------------------------

授 業 計 画

<p>言語の生活化は言語習得とその運用にある。言語習得は話しことばと書きことば、高次元の言語能力である思考活動や想像、その具体的表現としてのことばの産生や創作表現までを含んでみていくことになる。</p> <p>1。乳幼児の言語習得過程について概観する。 言語習得過程の第一段階である、コミュニケーション関係の成立過程についての学習をする。習得過程において、重要な役割を果たして行く信号行動系とその機能について体験的に習得していく。 乳幼児の生活と遊びの場面のv t r, 母親の育児日誌、保育の観察記録、保育園や幼稚園の見学観察からの検討をする。</p> <p>2。障害児の言語習得過程について概観する。 “障害”の見方 歪みの問題とその要因についての検討</p> <p>3。保育者自身の言語の生活化の実態についての検討 保育活動におけるその質を高めていくには、保育を担う保育者の質が問われることになる。乳幼児の言語の生活化の担い手ともなる保育者自身の言語の生活化の状況（受講生の現況について）を言語能力の側面とその運用能力に関連する、人間関係（コミュニケーション）能力について評価をする。その上でその保育者の質への道筋についての検討をする。音声表現も含めてみる。</p> <p>4。いわゆる言語教材；絵本、紙芝居、パネルシアター、ことばあそび、ペープサート、素話、などの素材とその特徴及びその選用法についての検討をする。</p> <p>5。対象児の年齢区分別の言語の生活化；かかわりかたの技法 6。創作作品とその表現法；年齢区分なく使えるもの 7。保育場面での表現法；音声を含むかかわりかた</p>
--

<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と平常点、演習結果のまとめのレポートとレポートで行う。</p>
--

「授業科目名」 現代保育特論 II	「担当者」 村田 保太郎
「開講期」 2年 前期	
<p>「授業目標」 保護者の育児と就労への援助、子育て育児支援。ゼロ歳児保育、乳幼児期の発達援助等、保育園・保育士の新しい役割と意識改革・保育実践が求められている。新たに求められる子どもや保護者への対応について探究する。</p>	
<p>「テキスト・参考書」 「保育の根っこにこだわろうPART6」村田 保太郎著 全社協刊</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育園に求められる新しい役割について考える</li> <li>2 母親の育児負担感の実態と保育園ができる事</li> <li>3 母親の育児負担の軽減のために保育士ができる事</li> <li>4 保育士に求められる意識改革</li> <li>5 保育サービスと共育てのはざままで</li> <li>6 新しい保育状況への理解と対応</li> <li>7 少子・高齢化に対応する保育士の意識改革</li> <li>8 保育士の基本を踏まえた新しい保育実践</li> <li>9 新たに求められる子どもへの対応</li> <li>10 新たに求められる保護者への対応</li> <li>11 子どもの命を預かり、子どもを育て、つつがなく命を渡す仕事</li> <li>12 保育所保育指針の再検討</li> </ol>	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の中でのミニレポート</li> <li>2 授業中における意見発表・問題協議に対する参加度・発言内容</li> </ol>	

「授業科目名」 保育・教育相談研究	「担当者」 村田 保太郎
「開講期」 2年 前期	
<p>「授業目標」 保育・教育相談の今日的意義を理解するとともに、相談の基本的な理論と技術を研究し、保育・教育相談に基づく人間理解と対人対応の在り方や技術について研究を深める</p>	
<p>「テキスト・参考書」  「幼児理解とカウンセリングマインド」 氏原 寛著 ミネルブ、書房  「Q &amp; A 子どもの心の健康相談室－0歳から6歳」村田保太郎著 平凡社</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育・教育相談における今日的意義と課題</li> <li>2 カウンセリング及びカウンセリングマインドの理解を深め、その理論と技法について実践的な力を習得する</li> <li>3 実例を通して、保育・教育相談の在り方について探究する</li> <li>4 カウンセリング理論の立場から幼児理解・保護者理解を深める</li> <li>5 カウンセリングマインドを生かした実践例を基にした事例研究</li> <li>6 ロールプレイングによる保育・教育相談の実際を体験する</li> <li>7 保護者からの相談、職場の対人関係等具体例を通して相談研究を深める</li> </ol>	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の中でのミニレポート</li> <li>2 ロールプレイングにおける対人対応の仕方</li> </ol>	

【授業科目】	家族福祉特論	【担当者】	吉澤 英子
--------	--------	-------	-------

【開講期】 2年 前期

【授業目標】  
 児童（高齢者、障害者も含めて）をめぐる諸現象が社会的問題となっている今日、「今、なぜ家族福祉か」について考究する。その際、家族（庭）の自立について検討し、そのアロウ-ウの具体的方法について探究する。

【テキスト】  
 使用せず

【参考書】  
 必要に応じて紹介する

授 業 計 画

- ① 家族、家庭をめぐる諸課題
    - 1) 概念の明確化にむけて
    - 2) 家族関係と家庭の機能 — アロウ-ウとライフサイクルの関連 —
  - ② 社会福祉の分野と家族福祉
    - 1) 養育や扶養機能の変化 — その現状と問題現象 —
    - 2) 家族福祉サービスの考え方 — 基本的理念について —
  - ③ 家族福祉の具体的展開方法
    - 1) 家族の自立 — 家族員としての役割と機能 —
    - 2) 家族、家庭に対する支援と制度
  - ④ 家族福祉（家庭福祉）の史的展開過程
    - 1) 生活者の視点から
    - 2) 関係論の視点から
    - 3) 環境論の視点から
  - ⑤ 課題整理とまとめ
- ※ ティスカッション — 検討課題 —
- ① 現代家族構造の特徴と家族関係
  - ② 核家族化、少子高齢化のむねと家族員のあり方
  - ③ 児童家庭福祉施策の現状と課題 — その問題点 —
  - ④ 児童家庭福祉の理念の検討
  - ⑤ 「家族の自立」とは、

【評価方法】  
 授業は毎回 ティスカッションによってすすめる。そのティスカッションに対する参加状況、発題内容、課題（提示されたもの）に対するまとめ（ペーパー）の内容などによる総合評価による。



【授業科目】 専攻科実習特演Ⅱ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年、後期	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前に各自の実習テーマを再度報告しあう</li> <li>2. 2週目の土曜日に中間報告会を学内で行う</li> <li>3. 実習終了後に専分析を行う</li> <li>4. 実習報告集を作成する（レポート提出）</li> </ol>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の目的を話す</li> <li>2. テーマを報告する</li> <li>3. 観察のポイントを話し合う</li> <li>4. 2週目の土曜日に報告しあう</li> <li>5. 終了後に実践分析を全員で行う</li> <li>6. 実習報告集を作成する（レポート提出）</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 実習園の評価と日誌、討論への参加度、最後のレポートで行う	

【授業科目】 専攻科実習Ⅱ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2 年 後 期	
<b>【授業目標】</b>  「専攻科実習特演Ⅱ」で学んだ実習内容を基にして実習に取り組む。	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
① 質の高い保育者をめざして、総合的な実践能力を高めるために、多様な視点を持って観察し、体験をする。 ② 指導計画案を立て、可能な限り、指導実習を体験させていただく。 ③ より実技的に高度な実践能力を身につけるための体験をする。	
<b>【評価方法】</b>  平常点、実習記録、反省会などを総合して評価	

【授業科目】 総合演習研究Ⅱ	【担当者】 堀江まゆみ ・ 民秋 言
【開講期】 2 年 前期（後半）・後期（前半）	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は、「総合演習研究Ⅰ」の成果を土台として、保育者として、一層高度な資質を養い、実践的な力量を高めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>この科目では、より高い実践的な力量、指導力を高めるために、位置づけ、ディスカッション、実地体験、調査等の方法を用いて演習的に行う。</p> <p>「総合演習研究Ⅰ」の課題「人間尊重・人権尊重」「少子化問題」「多様な保育ニーズ」「異文化理解」「社会への男女共同参画」等を取り上げ、幼稚園教育・保育の場においてどのように実現していくのか、指導方法や保育内容等、実践的に検討する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業における討論への参加状況・レポート</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。</li> <li>2. テーマによって、担当教員を決定する</li> <li>3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。</li> <li>4. 修了研究論文をまとめ、提出する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

福 祉 専 攻



【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期・後期	
<p><b>【授業目標】</b></p> <p>前期は、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを授業目標に進め、後期はケアのあり方など実践に即して学習していきます。また、介護保険をはじめ老人福祉制度については、前期実習前にその初歩を、本格的学習は後期の課題とします。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ。</li> <li>2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ。</li> <li>3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ。</li> <li>4. 介護保険制度をはじめ、現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ。</li> <li>5. 老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続き、具体的実践活動を学ぶ。</li> <li>6. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考える。</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の人権を守るケアの在り方について学ぶ。</li> <li>2. 在宅福祉への取り組み方、および地域社会との連携の意義と方法について学ぶ。</li> <li>3. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ。</li> <li>4. 施設運営の円滑化について学び、他業種との連携の意義と方法について学ぶ。</li> <li>5. 福祉労働の在り方について学ぶ。</li> </ol>	
<p><b>【参考図書】</b></p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p><b>【授業の進め方】</b></p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p>	
<p><b>【評価の方法】</b></p> <p>授業は、定時に始めます。</p> <p>最初の5分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認します。授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れ、最後の7分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。</p> <p>また、定期試験は、レポートとします。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、ミニレポート提出状況等）30%、試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

<b>【授業科目】</b> リハビリテーション論	<b>【担当者】</b> や え だ じゅん 八 重 田 淳
<b>【開講期】</b> 1年 後期	
<b>【授業目標】</b> リハビリテーションの哲学を教授する。	
<b>【テキスト】</b> 「リハビリテーションの哲学」(八重田 淳、法律文化社、2001年)	
<b>【参考書】</b> 「サポートの達人たち」(梅永雄二ほか、エンパワメント研究所、2001年)	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本論は、リハビリテーションの哲学をわかりやすい形で学生に伝えることをねらいとする。</li> <li>・本論受講後には、学生ひとりひとりが自分なりの「リハビリテーションの哲学」を論じる力を持つことができるように教授する。</li> <li>・授業形式は講義だけではなくグループ演習も取り入れる予定である。楽しく真剣に学ぶことをモットーとする。</li> <li>・講義内容の流れは以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの歴史</li> <li>2. リハビリテーションの理念の推移</li> <li>3. リハビリテーションの対象</li> <li>4. 医学的リハビリテーション</li> <li>5. 障害児教育とリハビリテーション</li> <li>6. 職業リハビリテーション</li> <li>7. 社会リハビリテーション</li> <li>8. リハビリテーション工学</li> <li>9. リハビリテーションカウンセリング心理学</li> <li>10. リハビリテーションプロセス</li> <li>11. リハビリテーションの効果測定</li> <li>12. リハビリテーションの将来展望</li> </ol> </li> </ul>	
<b>【評価方法】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席と授業への積極的な参加 (50%)</li> <li>2. 講義とグループ演習における課題達成の遂行 (25%)</li> <li>3. 自分なりの「リハビリテーション哲学」の口頭発表もしくは論述発表 (25%)  (受講生の人数及びスケジュールにより発表形式を授業開始後に決定する)</li> </ol>	



【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 奥住 秀之
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;"><b>発達障害の基礎を学ぶことがこの講義の目的です</b></p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;"><b>尾崎望・出島直編 新版子どもの障害と医療 全障研出版部</b></p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p><b>内 容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新しい障害概念の基礎知識</li> <li>2 知的障害(精神遅滞)の基礎知識</li> <li>3 ダウン症候群の基礎知識</li> <li>4 自閉症の基礎知識</li> <li>5 学習障害(LD)の基礎知識</li> </ol> <p><b>進め方</b></p> <p>講義形式で行います。板書中心に進めますので、ノートをしっかり取ってください。自分が書いたノートはどこかできっと役立ちます。また、ときどき、ビデオを使って具体的な発達障害の姿も見てみましょう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席, テスト, レポートで評価します</p>	

【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 高山 緑
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義のねらいは老年期の心理を理解することである。年齢をとれば誰にでも起きる正常な加齢変化と、病気などが原因で起きる病的な加齢変化とを区別して、現実におこっている加齢変化（老化）を偏見なく理解できるようにする。また、生涯発達の様式の中で、老年期の発達を学んでゆく。</p>	
<p>【テキスト】 下仲順子(編) 老年心理学 培風館 西村純一(著) 成人発達の心理学 酒井書店</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 老年心理学の歴史・高齢社会のもたらしたもの 高齢者の心理を学ぶにあたり、加齢変化や老年期などの概念と理論、老年心理学の歴史、高齢社会の現状などについて学ぶ。</li> <li>2 高齢期の疾患と身体・生理機能の老化 高齢期におこりやすい身体疾患、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能の加齢変化、および運動機能の加齢変化などについて学ぶ。</li> <li>3 高齢者の記憶 記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下による失敗を少なくするにはどうしたらよいか、考える。</li> <li>4 高齢期の知能・創造性・知恵 生涯を通じて知能はどのように発達するのか、生涯発達の視点にたつて理解する。また高齢期の創造性、知恵についても学んでゆく。</li> <li>5 人格と加齢・高齢期の適応 人格が成人期以降、どのような発達・変化をするのか生涯発達の視点にたつて理解する。</li> <li>6 死と死にゆく過程 死にゆくプロセスについて学び、人間として尊厳に満ちた死を迎えるにはどうしたらよいか、また残された人々のこころをどのように理解したらよいかについて考える。</li> <li>7 高齢期の家族と対人関係 高齢期の家族関係、対人関係について、モデルや研究成果をふまえながら理解する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への取り組み方・レポート等から総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 安倍 澄子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家族と家庭生活の運営・管理に関する基礎的知識・事項と、生活運営や生活様式に影響を与える住生活領域に関する基礎知識・事項を学習し、家事労働・介護援助のあり方と介護援助を生活自立・維持側面と、地域社会との関わりをもふまえ、その社会的役割についても考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 「家政学概論」 誠新書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>日本家政学会編 「変貌する家族」 建帛社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今日の高齢化社会といわれている現状を家族の変化とあわせて概観し、家庭生活にもたらされている変化や多様な影響について把握する。さらに、地域社会、とりわけ居住環境との関連からもその影響について検討を加える。</p> <p>これらから、家事・介護援助に携わる者として、家族の多様なあり方への理解と、個々人の生活の仕方や家族観・生活観が世代によって異なっていることへの洞察力を養うようにする。</p> <p>そこで、授業では、家族の変化と家庭生活についての社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、あわせて住まい方や地域社会の居住環境との関連からも、介護援助のあり方を考察できるようにし、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族・家庭生活の現状と変遷</li> <li>2. ライフサイクル・家族周期の変化と生活設計の課題</li> <li>3. 生活時間論</li> <li>4. 家事労働論</li> <li>5. 生活経済（家計費論）、高齢者・障害者と消費者問題</li> <li>6. 住まい方と居住環境</li> <li>7. 住宅改善の視点とその効果</li> <li>8. 高齢者・障害者と住政策</li> </ol> <p>なお、実習では、生活行為を時間・空間の2側面から捉える生活実態把握の調査手法を習得する。この調査結果の分析を通じて、「生活」を客観的に把握し、問題点を分析・考察できる目を養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと授業や実習時における取り組みの姿勢から、総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 山本良子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生活基盤をなす、家政学の概要を被服生活の分野について、必要な基礎知識を概説し、介護者として高齢者や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考え、実習では、衣服の調整ならびに管理に必要な実際を理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 家政学概論 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著      寮母・ヘルパーの家政学①被服 (全国社会福祉協議会)</p>	
授 業 計 画	
<p>被服生活について、下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 被服の役割と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服着用の目的 ②被服の機能</li> </ol> </li> <li>2) 被服の素材と品質表示             <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服の素材の種類と性能 ②被服素材の加工</li> <li>③被服素材の品質表示</li> </ol> </li> <li>3) 被服と保健衛生             <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服と体温調節 ②汚れと被服 ③衣料障害</li> </ol> </li> <li>4) 被服の選択と管理 (寝具類を含む)             <ol style="list-style-type: none"> <li>①被服の選択 ②被服の管理</li> </ol> </li> <li>5) 高齢者、障害者と被服             <ol style="list-style-type: none"> <li>①高齢者の被服 ②障害者の被服</li> </ol> </li> </ol> <p>以上をもとに特に高齢者、障害者の最適衣料品のありかたについて考える。</p> <p>実習では、素材の簡単な鑑別の仕方、取り扱い方法、被服の縫製の基礎と応用について行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート・平常点</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 風見 公子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者にとって望ましい食生活のあり方についての基礎的な知識を習得し、実践のための理解を得る。</p> <p>また、食生活に関する様々な技能を実習を通して学び、高齢者や障害者の食生活支援能力を養う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>① 教師作成のプリント</p> <p>② 福祉養成講座編集委員会編集 「家政学概論」 中央法規</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考書は授業の中で適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (講義) 食べる事の意義、食生活及び栄養学の最近の動向</li> <li>2. (講義) 身体の機能と栄養 (特に高齢者を中心として)</li> <li>3. (講義) 食品構成、料理構成、献立作成 (実習) 献立作成</li> <li>4. (調理実習) 実際に献立作成した成人の食事を実習する。</li> <li>5. (調理実習) 高齢者に好まれる常備菜を中心に実習する。</li> <li>6. (調理実習) 野菜1個の活用方法を実習する。 食事における感覚、摂食機能の役割も同時に習得する。</li> <li>7. (講義) 高齢者、障害者(児)の食生活及び栄養 食生活と健康(生活習慣病、病態時の栄養)</li> <li>8. (調理実習) 介護食(切り方、調理方法)</li> <li>9. (講義) 食品の成分と保存、管理、食品衛生</li> <li>10. (講義) 介護食(市販の介護食の試食) (実習) 嗜好調査</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験もしくは、課題レポートおよび出席状況</p>	

【授業科目】 介護概論	【担当者】 森山 千賀子
【開講期】 1年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の生活の維持・向上をはかり、快適な生活を過ごすことができるように介護の理論と方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士選書 14 『介護福祉概論』 建帛社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 介護福祉の概念と歴史</li> <li>2, 介護福祉の目的・機能・専門性</li> <li>3, 対象の理解ーグループワーク</li> <li>4, 介護福祉における援助関係</li> <li>5, 介護福祉に必要なコミュニケーション</li> <li>6, 介護技術の基本ー安全・安楽・安心・経済性と介護</li> <li>7, 自立（律）と生活の質の保障と介護</li> <li>8, 介護福祉の活動領域：地域・在宅・施設</li> <li>9, 関係職種との連携とチームワーク</li> <li>10, 介護過程とケアマネジメント</li> <li>11, 介護福祉と死：終末期の介護</li> <li>12, 介護者の健康管理と安全対策</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 平常点</p>	

【授業科目】 介護技術	【担当者】 森山千賀子・長谷川陽子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者や障害者がその人らしく快適に生活し、さらに生活の可能性を拓げるための援助である介護の技法を習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士養成講座12 『介護技術Ⅰ』 中央法規出版  介護福祉士養成講座13 『介護技術Ⅱ』 中央法規出版</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>1, 介護を必要とする人々の生活を理解する。</p> <p>2, 日常生活援助の介護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーション</li> <li>2) 観察</li> <li>3) 居住環境の整備</li> <li>4) 食事・清潔・排泄・衣類の選択と着脱</li> <li>5) 社会生活の維持拡大：姿勢・移動の動作</li> <li>6) 安楽と安寧の技法</li> <li>7) 医療上の対応と介護</li> <li>8) 緊急事故時の対応</li> </ol> <p>3, 家族支援のための介護技術</p> <p>4, 福祉用具の活用</p> <p>5, 記録・報告と介護</p> <p>6, 介護過程</p> <p>7, 終末期の介護</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験 レポート 平常点</p>	

【授業科目】 形態別介護技術（老人）	【担当者】 森山 千賀子
【開講期】 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> 高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する	
<b>【テキスト】</b> 介護福祉士選書 16 『形態別介護技術－老人編』建帛社	
<b>【参考書】</b> 授業で紹介する	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 高齢者介護を取り巻く環境</li> <li>2, 高齢者介護の基礎－高齢者の生活と特性</li> <li>3, 虚弱な高齢者・一人暮らし・高齢者世帯への援助</li> <li>4, 寝たきり高齢者の理解と介護</li> <li>5, 痴呆性高齢者の理解と介護</li> <li>6, 在宅高齢者の理解と介護</li> <li>7, ロールプレー～様々な疾患や環境にある事例をもとにグループで役割演技を行い、介護の方法や援助者の役割について学ぶ。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> レポート          平常点          筆記試験	



【授業科目】形態別介護技術（聴覚障害）	【担当者】貞廣 邦彦
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害に関する医学的知識を理解する。</li> <li>2 聴覚障害者の生活や心理を理解した適切な介護法を考える。</li> <li>3 残存感覚機能の活用法および音声言語に代わるコミュニケーション方法を習得する。</li> <li>4 福祉器具や用具についての知識と使用法を習得する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>「手にことばを（初級）」東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「わたしたちの手話（1）」全日本ろうあ連盟発行</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害の原因・種類・程度と残存感覚機能が生活へ及ぼす影響</li> <li>2 残存感覚機能を活用するための器具の利用と介護の留意点</li> <li>3 聴覚障害者の情報と福祉機器の種類</li> <li>4 聴覚障害者のコミュニケーションの方法</li> <li>5 生活場面での手話表現</li> <li>6 会話場面での手話表現</li> <li>7 手話の特徴と手話通訳の基礎的演習</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の出席状態と筆記試験によって評価する。</p>	

【授業科目】 形態別介護技術（精神障害）	【担当者】 池末 亨
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神障害者が地域生活を進める上で必要な福祉的援助のあり方について検討する。特に1999年5月精神保健福祉法改正で法定事業になり、2002年度から全国で実施されることになったホームヘルパー派遣制度の意義と課題について詳しく検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>精神障害者ホームヘルパー研修テキスト(精神障害者社会復帰促進センター)</p> <p style="text-align: right;">1200円</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、精神医療、保健、福祉の歴史</li> <li>2、精神病に対する治療とは別の、精神障害に対する福祉的援助の意義</li> <li>3、精神障害者に対する地域生活支援施策の概要</li> <li>4、精神障害者共同作業所の歴史的役割</li> <li>5、障害者プランにおける精神障害者福祉の位置づけ</li> <li>6、1999年5月精神保健福祉法改正と市町村の役割</li> <li>7、精神障害者ホームヘルパー派遣制度の意義と課題</li> <li>8、精神障害者ホームヘルプサービスの実際</li> <li>9、ホームヘルプサービスを進める際の医療保健関係者との連携</li> <li>10、まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>10回目(最終回)の講義の後半でテストを行う。</p>	

<b>【授業科目】</b> 形態別介護技術（視覚障害）	<b>【担当者】</b> 立花明彦
<b>【開講期】</b> 1年 後期	
<b>【授業目標】</b> <p>視覚障害といっても、その程度、原因、障害発生時期および今後の進行予測など、個人によってさまざまであり、それがもたらす日常生活への影響も異なる。加えて、近年は高齢で視覚障害となる人が増加しており、視覚障害をもつ人々の状況は多様化している。このため、視覚障害者の援助に当たっては一人一人の状態を正しく認識し、適切な介護をすることが求められる。</p> <p>本講義では、そのための基本的な知識・技能を習得する。合わせて、適切な介護ができるような心構えを養う。</p>	
<b>【テキスト】</b> <p>視覚障害者の介護技術、点訳のしおり</p>	
<hr/> <b>【参考書】</b>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>(1) 視覚障害に関係する医学的知識、保有感覚の活用など視覚障害を理解するための基礎的な知識を学習する。</p> <p>(2) 実態調査をもとに、視覚障害者の統計的動向を学習する。</p> <p>(3) 教育、職業、生活の現状について学習する。</p> <p>(4) コミュニケーションの介護として、基本的な点字の読み書きを学習する。</p>	
<b>【評価方法】</b> <p>出席状況、平常点、筆記試験</p>	

【担当科目】形態別介護技術(内部障害・肢体不自由)	【担当者】 落海 文子
【開講期】 1 年 前 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由・内部障害に関する医学的基礎知識を習得する。</li> <li>2. 肢体不自由者(見)・内部障害者の生活・心理を理解する。</li> <li>3. 肢体不自由者(見)・内部障害者に対する日常生活上の介助・介護方法を体系的に理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版KK)</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考書、資料、ビデオなどを講義のなかで随時紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由・内部障害を起こす原因、疾患、障害の状態の理解と合併障害の把握</li> <li>2. 肢体不自由者(見)・内部障害者の生活上の障害の特徴</li> <li>3. 障害を持つ人々の心理や行動特徴</li> <li>4. 肢体不自由者(見)・内部障害者のニーズに合った介護技術とQOL向上をめざした生活支援の方法</li> <li>5. 介護に必要な福祉用具の知識と活用方法</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点・レポート・筆記試験にて評価する。</p>	

【授業科目】 医学一般	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の解剖・生理学を base に、加齢現象や臓器相関性の理解を図る。</li> <li>2. aging による種々の障害や疾患の理解をはかり、予防法の習得をめざす。</li> <li>3. 医療・介護の現場で理解しておいた方が better な知識の習得。</li> <li>4. 健康増進および疾患予防に関する知識の理解。</li> </ol>	
<b>【テキスト】</b> 介護福祉士養成口座 10 医学一般 (中央 法規)	
-----	
<b>【参考書】</b> からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店) ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規)	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1) 解剖学・生理学を中心に人体全体の仕組みを把握する。</li> <li>2) 加齢による老化の理解。一定義・特徴・学説・老化に影響する因子など</li> <li>3) 老年病の特徴の理解。</li> <li>2. 老化と各種疾患 (解剖学・生理学を review しながら)             <ol style="list-style-type: none"> <li>A) 脳、神経系；高齢者脳血管障害の特徴</li> <li>B) 心、血管系；高血圧、虚血性心疾患 (無症候性心筋虚血を含む)、不整脈、心不全</li> <li>C) 呼吸器系；肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺癌</li> <li>D) 消化器系；高齢者の急性腹症、消化性潰瘍、消化管悪性腫瘍</li> <li>E) 内分泌、代謝系；高脂血症、高齢者糖尿病</li> <li>F) 骨、関節系；骨粗鬆症、変形性関節症などの疾患</li> <li>G) 腎、泌尿、生殖器系；腎不全、前立腺肥大症と前立腺癌、子宮脱等</li> <li>H) 血液系；高齢者の貧血</li> <li>I) その他の器官系 (老年各診療科目の対象となる疾病、障害について)</li> </ol> </li> <li>3. 1) カルテ (医療情報提書) の読み方             <ol style="list-style-type: none"> <li>2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解</li> <li>3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿など)</li> <li>4) 入所者の全身状態の把握の仕方</li> <li>5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置</li> <li>6) 頻用される医療機器の理解——心電図・吸引機・血圧計・CT・MRI・胸部・腹部 X-P・エコー・アンギオなど</li> </ol> </li> <li>4. 1) 健康の概念             <ol style="list-style-type: none"> <li>2) わが国の健康水準と健康増進施策</li> <li>3) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 —食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・休養とストレス—</li> </ol> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 出席点と筆記試験	

【授業科目】 レクリエーション活動援助法	【担当者】 高橋 紀子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護サービスの究極の目的は、援助の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することである。その中でレクリエーション（日常的な楽しさづくり）援助の果たす役割は大きい。この授業では、これからの社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、レクリエーション活動援助の基本的な方法と援助者の果たすべき役割について体験学習を織り交ぜながら追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>蘭田碩哉共著 「レクリエーション活動援助法」 中央法規</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 出会いの時間・・・よりよく知り合うために 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深めるレクリエーションの実際を体験する。</p> <p>2) レクリエーションとは何か レクリエーションのイメージの点検から始めて、レクリエーションという概念がなぜ生まれてきたか、現代の社会でレクリエーションの持つ積極的な意義を検討する。</p> <p>3) レクリエーション支援の必要 これからの福祉サービスのあり方を考え、その中でレクリエーション活動への援助が果たすべき役割を考える。福祉現場でのレクリエーションを紹介するビデオ視聴を素材に、小グループでの論議を行う。</p> <p>4) レクリエーション援助のプロセス (2回) レクリエーション援助はアセスメント－企画－実施－評価のプロセスを踏んで行われることが望まれる。その進め方を具体的な事例に即して検討する。</p> <p>5) レクリエーション援助者の資質 (2回) レクリエーション援助者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力について、グループ・エンカウンターの手法を使って体験学習する。</p> <p>6) ケーススタディ(1)・・・高齢者の場合 (2回) 高齢者のレクリエーションの事例を取り上げ、それが持つ可能性、援助を行う上での問題点、高齢者にふさわしいレクリエーションの素材研究を行う。</p> <p>7) ケーススタディ(2)・・・障害者の場合 (2回) 障害者のレクリエーションの問題を、障害者の生活を豊かにするノーマライゼーションの一環という視点から取り上げ、バリアフリーの実現の方策を検討する。</p> <p>8) 生活を楽しむ・・・ライフスタイルとレクリエーション レクリエーションは生活の中に多様な楽しみを作り出す総合的なプログラムであるという見地から、レクリエーションが根を下ろした生活のスタイルを考える。</p> <p>9) レクリエーション・パーティ実習 遊びの精神を生かし、一人一人が主人公であるような楽しいパーティを企画し、みんなで役割を分担して実施し、全体の「まとめ」とする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業時に取り組むワークシートの内容と、最後の総括レポートの出来ばえを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導	【担当者】 森山千賀子・今井百合子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 介護実習の重要性について理解する。</li> <li>2, 介護実習を通じて学んだ知識・技術・態度を目的かつ実践的に理解する。</li> <li>3, 介護過程の展開について学び、実習終了後事例としてまとめる。</li> <li>4, プロセス・レコードの検討、事例検討会を通じて様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書 17 『介護福祉実習指導』 メヂカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 施設介護実習・訪問介護実習       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習の目的について理解する。</li> <li>2) 施設介護実習準備として、施設実習の機能と利用者について理解する。 訪問介護実習準備として、地域・家族・利用者について理解する。</li> <li>3) 実習記録の書き方について学ぶ。</li> <li>4) 実習後のグループワークにより、お互いの経験を交流し、今後の課題を明らかにする。</li> </ol> </li> <li>2, 介護過程の展開について学び、実習終了後に事例としてまとめ、自己の介護を客観的に見つめる視点を持つ。</li> <li>3, プロセス・レコードの検討、事例検討会を通して、様々な角度から一人の人をとらえる方法を学ぶ。 また、他者の意見を聞き検討する中で、よりよい介護について考える機会とする。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習記録      ケーススタディ      平常点</p>	

【授業科目】 介護実習	【担当者】 森山千賀子・今井百合子
【開講期】 1年 前期・後期	
<b>【授業目標】</b> 1, 施設・地域で生活してしている人々の「暮らし」を理解し、施設設備や施設職員のあり方や必要な介護サービスについて考える。 2, 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。 3, 介護福祉士としての介護観を養う。	
【テキスト】	
<b>【参考書】</b> 授業で紹介する	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>介護実習は、45日間をⅢ期に分けて行う。</p> <p>1, 施設介護実習</p> <p>1) 第1段階（2週間） 5月20日（月）～ 6月 8日（土）  *コミュニケーションが比較的とりやすい利用者との人間的な関わりを深め、利用者のニーズは何かを理解する。  *初歩的な日常生活援助を体験する。  *施設職員の一般的な役割について学ぶ。</p> <p>2) 第2段階（2週間） 9月 9日（月）～ 9月21日（土）  *利用者との関わりを深め、利用者の生活歴を含めて全人的に理解する。  *障害のレベル応じて求められる介護技術の適正な使い方について学ぶ。  *他職種の役割について理解する。</p> <p>3) 第3段階（4週間） 11月 4日（月）～11月30日（土）  *施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解する。  *個別の利用者を担当し、介護過程に展開について学ぶ。</p> <p>2, 訪問介護実習（1週間）  居宅介護事業等の訪問介護員、入浴サービス及び在宅介護支援センター（訪問）職員との同行訪問を行う。  時期については、可能な限り第1段階に実施し、生活者としての利用者の理解を深める。</p>	
<b>【評価方法】</b> 実習記録      レポート      評価表      平常点	





【授業科目】 社会福祉制度政策論	【担当者】 中山正雄
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉制度は、社会の支配者と支配される側との歴史的な戦いの中で政策として展開されてきたものである。制度政策はその時代の社会の仕組みおよび社会の発展と密接に関係している。本講義では現代社会の社会福祉制度の現状と問題点を探りながら、社会福祉政策がどのような関係から成り立ちどのような関係で発達してきたのかを理解し、今後の社会福祉政策を福祉の担い手として判断する視点を養うことを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>開講時に提示する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉制度</li> <li>2. 戦前の社会事業と政策</li> <li>3. 戦後の社会福祉改革と社会福祉制度の確立</li> <li>4. 社会福祉制度論と政策</li> <li>5. 経済成長と社会福祉政策</li> <li>6. 社会福祉諸制度の現状と基礎構造改革</li> <li>7. 権利保障と権利擁護の制度政策</li> <li>8. 日本の社会福祉制度の問題点と課題</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とレポート</p>	

【授業科目】 障害福祉論	【担当者】 高橋流里子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害とは何か、障害のある人が社会からどう観られてきたか、障害のある人にはどんな生活のしにくさがあるのかなどを事例を通して理解をしてもらいたい。また、日本における障害者福祉政策の理念と政策動向及びサービスの現状にふれる。これらを通して専門職として介護福祉士の課題を考える機会にしてほしい。</p>	
<p>【テキスト】 高橋流里子 『障害者の人権とリハビリテーション』 中央法規出版</p>	
<p>【参考書】</p> <p>佐藤・小澤 『障害者福祉の世界』 研斐閣</p>	
授 業 計 画	
<p>1、障害をもつ人の生活は？</p> <p>2、さまざまな障害者観と基本的人権 ノーマライゼーション、自立生活など</p> <p>3、障害とは：障害の構造的な理解</p> <p>4、心身の障害の種類や障害をもつ人の実態</p> <p>5、障害者福祉政策の体系と援助の実際</p> <p>6、当事者参加と権利擁護：専門職としての介護福祉士の課題</p> <p>予定されている授業は6回と少ないが、1回の授業時間が長いので、できるだけ学生さんとの活発なやりとりができる授業にしたい。ご協力を！</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>主は小レポート、期末レポートで判断するが、出席と授業への参加態度も加味する。 出席率以上で評価対象となる</p>	

【授業科目】 社会福祉援助方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護福祉の実践にとって必要な社会福祉援助技術の意義と内容について理解を深めると共にその応用能力を向上させる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉援助技術と介護福祉士</li> <li>2. 社会福祉援助技術の基本的枠組み</li> <li>3. 社会福祉援助技術の理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別援助技術（ケースワーク）の意義・機能・展開過程など</li> <li>(2) 集団援助技術（グループワーク）の意義・機能・展開過程など</li> <li>(3) 地域援助技術（コミュニティワークなど）の意義・機能・展開過程など</li> <li>(4) 関連援助技術（ケアマネジメント、ネットワーク、スーパービジョンなど）</li> </ol> </li> <li>4. 社会福祉援助技術における具体的手段       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 面接の構造と技法</li> <li>(2) 記録の書き方</li> <li>(3) 事例研究の方法</li> </ol> </li> <li>5. 事例研究</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	



学籍番号・

氏名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830  
教務課 042(346)5619